

日本医療福祉政策学会 2022 年度研究例会（第 6 回）の開催案内（第 2 報）

下記の内容で、2022 年度研究例会を開催します。午前の部では、野村記念奨励賞受賞者の西岡先生による記念講演を、また、午後の部では、「貧困と公的扶助を考える」をテーマとしたシンポジウムとパネル・ディスカッションを開催します。当日の参加費は無料ですが、参加に際しては、事前に下記の参加フォームより登録をお願いいたします。

ふるってご参加くださいますよう、お願いいたします。

【参加フォーム URL】 *8 月 5 日までに登録をお願いいたします。

<https://forms.office.com/r/hyix8S0Ru8>

【日時と内容】

- ・ 2022 年 8 月 6 日（土） 10 時 30 分～16 時
- ・ 場所 オンライン（Zoom）開催

<https://us06web.zoom.us/j/86299726906?pwd=TlF4KzB3N3dMc00ybmJWb3ErSVF4Zz09>

ミーティング ID: 862 9972 6906

パスコード: 368548

（オンライン会議は、10 時 15 分開場、16 時 15 分終了です。）

<午前の部> 10 時 30 分～12 時

- ・ 開催挨拶
- ・ 野村記念奨励賞受賞記念講演（座長：松田亮三氏）
「生活保護利用者の頻回受診に関連する要因：個人と医療機関の特徴」
講師：西岡大輔氏（大阪医科薬科大学医学研究支援センター医療統計室）

<午後の部> 13 時～16 時

- ・ 研究例会シンポジウム－貧困と公的扶助制度を考える
報告 1 「貧困理論と医療・福祉運動」（志賀信夫氏）
報告 2 「貧困問題と市民運動」（高木博史氏）
パネル・ディスカッション（司会進行；坂本毅啓氏）
- ・ 閉会挨拶

【午後の部－研究例会シンポジウムの概要】

・テーマ 貧困と公的扶助制度を考える ～社会運動をキーワードにして～

・開催趣旨

2020年からの新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、バルネラブルな存在に社会的なしわ寄せが集まっている。貧困対策の最後の砦である生活保護制度は、今後も続くと考えられる貧困問題の深刻化に対して、健康で文化的な最低限度の生活を保障することを果たして可能なのか。アフターコロナと言われる社会状況になった時、生活保護制度は、そして貧困に対する社会福祉政策と実践はいかにあるべきか。これらを考える手がかりの一つとして、今回は社会運動という視点を加えて、これからの生活保護制度の在り方について議論を深めていきたい。

・シンポジウムの内容

報告1 「貧困理論と医療・福祉運動」 志賀信夫氏（県立広島大学准教授）

志賀氏が関わった生活保護裁判の内容を踏まえて、現代における貧困理論から検討を行う。その上で、医療・福祉運動はどのような方向性を目指すことが望ましいのかを検討する。

報告2 「貧困問題と市民運動」 高木博史氏（岐阜協立大学教授）

高木氏がこれまで関わってきたコロナ禍前の福祉事務所の調査、そしてコロナ禍での多岐にわたる市民活動の内容について紹介する。生活保護行政や生活保護ケースワーカーと、市民運動はどのように向き合っていくことが可能なのかを検討する。

パネル・ディスカッション 司会進行：坂本毅啓（北九州市立大学准教授）

研究例会企画委員会 坂本毅啓、佐藤英仁